

## 第3回 日本プランニングスツェレ研究会開催

別府大学文学部人間関係学科  
教授 篠藤 明德

今年10月21日（土）午後2時から、東京自治研究センターにおいて第3回日本プランニングスツェレ研究会が開催された。大学関係者、青年会議所のメンバー、行政関係者、まちづくりメンバー等30名近くが参加した。異なった分野からの参加は設立以来、当研究会の特色である。

今年は、市民討議会が、千代田区、立川市で実施され、三鷹市では「みたかまちづくりディスカッション」として、行政も共催し、本格的活動が始まり、社会的に大きく注目された。そのため、第3回研究会は、その事例報告と検討が中心的議題であった。

はじめに、私が「新しい市民参加と討議デモクラシーの連関」のテーマで報告を行ない（本号参照）、その後、3つの事例を報告していただいた。千代田区は三橋仁さんが、立川市は相原邦康さんが、そして、三鷹市は小針憲一さんが報告した。その際、検討しやすいように、以下の点を中心に述べていただいた。

- 1、テーマは適当であったか？
- 2、参加者の募集の仕方、人数、謝礼
- 3、実施機関、実施体制
- 4、日程の長さ、討議のコマ数
- 5、情報提供
- 6、小グループでの話し合いで、話し合いルール、補助員、ワークシートなどの必要性和今後の工夫
- 7、結論の出し方（案の絞込み、投票、合意形成など）
- 8、結果の反映

千代田区の今年のテーマは身近な課題ということで「子育て支援」だった。議論は活発であったが、予想できる議論であったとも言える。今年の大きな特徴は、7月1日と15日に分けて開催した



ことだ。参加者は13名と17名で、区の後援を得て、事前の説明会を昼、夜に設定し6回実施したことが良かった。謝金は1日7000円。実施機関は、青年会議所。討議のコマ数はそれぞれ4コマ、3コマで、短くて良かったという面と消化不良の面が出た。情報提供では、思い入れのある方がPRに終始するということがあった。運営のためにハンドブックを作成し、ワークシートも活用した。結論はいくつかの案を出してもらい投票した。結果は、区に提案として提出した。

立川市は、8月5日（土）の1日でテーマは「市議会と市民の関係」。立川市の特徴は、住民基本台帳を使えなかったのも、住所に番号を振って無作為抽出し、メンバーが出席のお願いをポストインした。この場合、特定個人の無作為抽出ではなく、家単位になるが、その結果、13名参加した。謝金は1万円。青年会議所が主催し、議会と市が後援した。討議は2コマ。情報提供は、同市市議会議員と構想日本のメンバー。昼の上で行ない、雰囲気はとても良かった。

三鷹市は、小針さんが内幕を含め大変興味深く説明した（詳細は、日経グローバル06年10月参照）。その後、行政から見れば実施しやすいのでは、新しい公共空間などの議論とどう関係するのか、など活発な議論が続いた。次回の研究会は07年3月の予定である。